

総括

2022年のJRDR年次調査結果を総括すると、わが国の慢性透析患者数は347,474人であった。この数は、この調査が開始されて以来はじめて前年に比較して減少した。近年、透析患者数増加速度が鈍化してきていたが、2022年には、導入患者数が前年に比較して828人減少した一方、死亡患者数が38,464人と前年に比較して大きく増加した。新型コロナウイルス感染症や、それに伴う医療環境の変化が影響した可能性がある。透析患者の高齢化はさらに進行し、導入患者の平均年齢は昨年に引き続き70歳を超え、71.42歳、年末患者の平均年齢も69.87歳であった。

原疾患においても、従来の結果と同様であった。導入患者の原疾患は、糖尿病性腎症が第1位、2019年以来、腎硬化症が第2位となっている。腎硬化症は導入患者・年末患者とも原疾患の割合の中で増加している。一方、導入患者に占める糖尿病性腎症の割合は近年持続的に減少している。粗死亡率は11.0%と1983年の患者調査開始以来最も高率であった。新型コロナウイルス感染症およびそれに伴う医療環境の変化の影響のほか、透析患者における高齢者の割合の持続的な増加が関与していると考えられる。死因別でも、透析患者全体において、初めて感染症が最も多い死因となった。

わが国の透析液の生物学的水質は非常に高く、本学会基準の遵守度も高い水準を維持している。2017年から調査が開始された化学的汚染基準については、化学的汚染物質の測定、残留塩素の測定頻度など本学会の水質基準の遵守率が徐々に向上している。

透析モダリティについてはHDF療法の持続的な増加、PDの増加等、多様化が進んでいる。わが国の特色であるPDの併用療法の比率は約20%であり、ここ数年変わりはない。

2020年に本邦で上市されたHIF-PH阻害薬は、われわれに新たな貧血の治療手段を提供した。調査では、Hb、鉄代謝マーカー、貧血治療薬が調査された。調査では、Hbの値がガイドラインの管理目標値に到達している患者割合の増加、鉄代謝マーカーは2012年からTSAT低値・フェリチン低値の割合が減少傾向にあった。貧血治療薬としてはESAが広く使われていること、今回新たに検討されたHIF-PH阻害薬抵抗性指数についても、アルブミン・他の鉄代謝マーカーとの関連が示唆された。今後、HIF-PH阻害薬の関連合併症についての評価も合わせ、この薬剤の意義が明確になってくることが期待される。

新型コロナウイルス感染症については、感染の既往、ワクチン接種の有無が調査された。感染の既往については、年齢が大きく関わっていることが明らかになった。また、ワクチン接種回数も年齢と関連があり、高齢者ほど接種回数が多いこと、60歳以上では過半数が5回以上のワクチンを接種していた。

また、2022年調査では、2018年以來の腹膜透析の章を設けた。前回調査から1,086人増加がみられ、11.5%の増加になる。併用療法是20.3%を占め、2018年からは0.6%ポイントの増加にとどまり、大きな変化はない。透析患者全体に比較すると平均年齢は低く、平均PD歴は38.20ヵ月、併用患者では66.86ヵ月であった。腹膜炎発症率は0.20回/患者・年であり、ISPDの目標値を大きく下回っていた。

2019年から引き続き調査されている腎提供の有無について、2022年調査でも2021年同様に調査が行われた。昨年同様の結果が得られた。

今回、記載した新規調査項目の結果は、いずれも横断的検討であり、患者背景因子の調整による、より詳細な検討から、透析患者におけるこれらの疾患・病態の特徴が明確化されることが期待される。

最後に、新型コロナウイルス感染症対応で大変な負担があるなか、例年にもまして詳細なご回答をいただいたことに対して、各ご施設の担当者の方々に深くお礼を申し上げたい。

■地域協力員 (敬称略)

(北海道) 前野七門, (北海道) 西尾妙織, (青森) 大山 力, (岩手) 阿部貴弥, (宮城) 佐藤壽伸, (秋田) 鈴木文博, (山形) 伊東 稔, (福島) 風間順一郎, (茨城) 植田敦志, (栃木) 齋藤 修, (群馬) 安藤哲郎, (埼玉) 小川智也, (埼玉) 熊谷裕生, (千葉) 寺脇博之, (千葉) 浅沼克彦, (東京) 安藤亮一, (東京) 阿部雅紀, (東京) 柏木哲也, (東京) 濱田千江子, (神奈川) 柴垣有吾, (神奈川) 平和伸仁, (新潟) 島田久基, (富山) 石田陽一, (石川) 横山 仁, (福井) 糟野健司, (山梨) 深澤瑞也, (長野) 上條祐司, (岐阜) 松岡哲平, (静岡) 加藤明彦, (静岡) 森 典子, (愛知) 伊藤恭彦, (愛知) 春日弘毅, (三重) 小藪助成, (滋賀) 有村徹朗, (京都) 橋本哲也, (大阪) 長沼俊秀,

(大阪) 林 晃正, (大阪) 山川智之, (兵庫) 西 慎一, (兵庫) 藤森 明, (奈良) 米田龍生, (和歌山) 山本脩人, (鳥取) 中岡明久, (鳥根) 神田武志, (岡山) 杉山 齊, (広島) 正木崇生, (山口) 新田 豊, (徳島) 岡田一義, (香川) 山中正人, (愛媛) 菅 政治, (高知) 大田和道, (福岡) 田村雅仁, (福岡) 満生浩司, (佐賀) 宮園素明, (長崎) 錦戸雅春, (熊本) 宮田 昭, (大分) 友 雅司, (宮崎) 佐藤祐二, (鹿児島) 野崎 剛, (沖縄) 大城吉則

文献

- 1) 中井滋. 日本透析医学会統計調査の歴史. 透析会誌 2010; 43: 119-52.
- 2) 政金生人. 透析療法の動向～統計調査から見えてくるもの～. 透析会誌 2016; 49: 211-8.
- 3) 和田篤志, 新田孝作, 花房規男, 他. WADDA system の使用法と有効活用. 透析会誌 2019; 52: 673-8.
- 4) 厚生労働省, 文部科学省. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf (2023.11.20 最終アクセス)
- 5) 文部科学省, 厚生労働省, 経済産業省. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (令和4年3月10日一部改正)」
<https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf> (2023.11.20 最終アクセス)
- 6) https://center6.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr_e/ctr_view.cgi?recptno=R000021578 (2023.11.20 最終アクセス)
- 7) 中井滋, 若井建志, 山縣邦弘, 井関邦敏, 椿原美治. わが国の慢性維持透析人口将来推計の試み. 透析会誌 2012; 45: 599-613.
- 8) United States Renal Data System. 2022 USRDS Annual Data Report: Epidemiology of kidney disease in the United States. National Institutes of Health, National Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases, Bethesda, MD, 2022.
- 9) 新田孝作, 政金生人, 花房規男, 他. わが国の慢性透析療法の現況 (2017年12月31日現在). 透析会誌 2018; 51: 699-766.
- 10) 秋葉隆, 川西秀樹, 峰島三千男, 他. 透析液水質基準と血液浄化器性能評価基準 2008. 透析会誌 2008; 41: 159-67.
- 11) 峰島三千男, 川西秀樹, 阿瀬智暢, 川崎忠行, 友雅司, 中元秀友. 2016年版透析液水質基準. 透析会誌 2016; 49: 697-725.
- 12) Tang X, Fang M, Cheng R, et al. Iron-Deficiency and Estrogen Are Associated With Ischemic Stroke by Up-Regulating Transferrin to Induce Hypercoagulability. *Circ Res* 2020; 127: 651-63.
- 13) Alnuwaysir RIS, Beverborg NG, Hoes MF, et al. Additional burden of iron deficiency in heart failure patients beyond the cardio-renal anaemia syndrome: findings from the BIOSTAT-CHF study. *Eur J Heart Fail* 2022; 24: 192-204.
- 14) 内田啓子, 南学正臣, 阿部雅紀, 他. 日本腎臓学会 HIF-PH 阻害薬適正使用に関する recommendation. *日腎会誌* 2020; 62: 711-6.
- 15) Chen N, Qian J, Chen J, et al. Phase 2 studies of oral hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitor FG-4592 for treatment of anemia in China. *Nephrol Dial Transplant* 2017; 32: 1373-86.
- 16) Mokas S, Larivière R, Lamalice L, et al. Hypoxia-inducible factor-1 plays a role in phosphate-induced vascular smooth muscle cell calcification. *Kidney Int* 2016; 90: 598-609.
- 17) 2015年版日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン. 透析会誌 2016; 49: 89-158.
- 18) 日本臨床腎移植学会, 日本移植学会. 腎移植臨床登録集計報告 (2022) 2021年実施症例の集計報告と追跡調査結果. *移植* 2022; 57: 199-219.
- 19) Delmonico F, Council of the Transplantation Society. A Report of the Amsterdam Forum On the Care of the Live Kidney Donor: Data and Medical Guidelines. *Transplantation* 2005; 79: S53-66.
- 20) 日本臨床腎移植学会, 日本移植学会. 生体腎移植のドナーガイドライン.
<http://www.asas.or.jp/jst/pdf/manual/008.pdf> (2023.11.27 最終アクセス)